

和's YAMATO

(わづやまと)

秋号 2012



表紙の絵 ミニ解説

日本人にとっての「記憶の花」をテーマにした作品。
曼珠沙華はお彼岸を想起させる。
西野氏の日本画は、琳派をリスペクトした技法を用い、
現代デザインを融合させての獨創性を表現している。
2012年9月下旬から10月にかけて、㈱ヤマト本社ビルギャラリーホールで
個展「記憶の島 BALI〜里山への郷愁〜」を開催した。

「華音/曼珠沙華」 西野正望 画

NHK大河ドラマ『平清盛』より

- ◎海洋・貿易国家を目指した平清盛の福原遷都
- ◎反平氏の動きが活発化し源頼朝が挙兵
- ◎源平の旧跡を歩く〈鎌倉・神戸・須磨〉

◎お客様紹介

- 九十九里ホーム様(千葉県匝瑳市)
- ◎和'Sコラム
- ◎名水探訪・平成の名水百選
- 秩父カタクリの里・昆沙門水

海洋・貿易国家を目指した 平清盛の福原遷都

平清盛

現在、NHKで放映されている大河ドラマ「平清盛」。時の権力者・後白河法皇をも退け、京から福原へと強行遷都を行い、海洋国家の樹立を夢見た清盛。娘の徳子が入内し生んだ皇子も安徳天皇となり、平家一門の栄華は永遠に続くかに見えた。しかし、反清盛派の朝廷・貴族たちの後押しで台頭した、源頼朝率いる源氏に、平氏は富士川の戦いであえなく敗れる。かくして、驕れる平家の勢いにも、しだいに暗雲が垂れ込めていく――

摂津国福原とは、現在の神戸市兵庫区北部地域の一帯であり、同区平野町や雪御所町、荒田町周辺と考えられている。仁安二年（一一六七）、律令制下の最高官職である太政大臣に昇り詰めた平清盛は、わずか三ヵ月後に太政大臣を辞任。翌仁安三年（一一六八）には出家して、京から福原へと居を移した。しかし、福原に移り住んだのは、政治からの引退を意味するのではなく、京の朝廷政治の秩序に縛られず、独自の行動をすることを目指していた。さらに、大輪田泊を拠点にして、日宋貿易を拡大しようとも試みたのである。

関心を持っていた宋との貿易の窓口も大宰府であり、宋船が九州を超え本土へと入ってきて、瀬戸内海を航行することとは認められていなかった。が、清盛はこの条約を破り、嘉応二年（一一七〇）、福原に宋船を入港させ、しかも後白河法皇を宋人に対面させるといって、朝廷や貴族たちの想像を超える難事を実行に移す。保守派の公家・九条兼実も自らの日記に、そうした事態を「天魔の所業」と記し、清盛の行動を非難した。瀬戸内海まで宋船が入って来たという現実、例えば江戸時代の開国にも匹敵する、時代が転換するほどの画期的な出来事であった。

革への取り組みは、旧来の秩序を重んじる公卿たちから反発を買ひ、さらに、後白河法皇も清盛の政治力の増大に、しだいに警戒感を抱き始めることとなる。一方、京都から離れていた親平家派の公卿たちは、依然政務に大きな影響力を及ぼし、清盛の意向を強く反映させ続けていた。また、清盛の妻・時子の異母妹である建春門院滋子（後白河法皇の妻）も政務に関わる実力者であったため、平家政権を強力に支えると共に、清盛と後白河法皇の路線対立を回避させるなど、大きな役割を果たしていた。

しかし、その滋子が死去すると、清盛と後白河法皇との関係には綻びが見え始め、滋子に代わって、両者の対立を修復できる人物は存続しなかった。安元三年（一一七七）六月、後白河法皇の側近が平家討伐を計画した「鹿ヶ谷事件」が発覚すると、清盛と法皇の間には、決定的な亀裂が生じることとなった。清盛は事件の首謀者である法皇近臣の西光を捕らえ、さきさま斬首にした。しかし、西光を中心とする後白河法皇の近臣たちが、鹿ヶ谷で平氏打倒の密談をしたという事件も、それ自体が定かではなかった。むしろ、西光らを葬るための陰謀ではなかったかとする説もあり、真相は明らかではない。いずれにせよ、当時反清盛勢力が徐々に増えていたことは確かであろう。



（2〜3ページ写真は神戸市）

清盛塚

清盛塚は石造の十三重の塔で、鎌倉幕府の第9代執権北条貞時が建てた、平清盛の供養塔である。清盛没後100年の追善供養の塔だといわれている。清盛塚と小道を挟んで琵琶塚がある。江戸時代から、琵琶の名手・平経正の墓と信じられている。平経正は清盛の弟経盛の長男で、敦盛の兄にあたる。



琵琶塚



古代大和田泊の石椋

清盛の日宋貿易の拠点となった、大和田泊から出土した巨石。石椋とは防風・防波のための石の堤のことで、この巨石は石椋の一部といわれている。昭和27年（1952）に、周辺にある運河の工事の際に発見された。

平清盛が貿易の拠点とした神戸港

神戸港は、幕末の慶応年間に、諸外国と通商条約が結ばれたことにより、外国船の停泊港として開港され、現在に至るまで国際貿易港の機能を持ち発展してきた。神戸港を幕末の開港からさらに遡ると、奈良時代には、瀬戸内海を航行する船が立ち寄り天然の良港「大和田泊」が築かれていた。平清盛が日宋貿易を拡大するため、大和田泊の重要性に目をつけ、その改修工事に着手したのである。

承安三年（一一七三）、清盛は私財を投じて風よけや雨よけのための人工島を造り始めた。大和田泊は風雨によりしばしば船が難破したため、より安全な港に改造する必要があった。しかし、当時の工事中にも強い風波があり、人工島の築造は困難を極めた。清盛の側近たちは人柱（人間を生き埋めにする）を立て海神の災いを鎮めるよう勧めたが、清盛は人柱は罪業であると断じて、それを受け入れなかった。その代わりに、埋め立てに使う石の表面に経文を書き、人工島の基礎にしたという。古代から伝わる因習にもとらわれない、清盛の人命を尊重するエピソードといえよう。

経文が書かれた石が基礎となった人工島は「経が島」と呼ばれ、大和田泊は日宋貿易の拠点となり、清盛の死後も航路の拠点として栄えていく。鎌倉時代以降は「兵庫津」と呼ばれ貿易振興に役立ち、江戸時代には北前船の集散地として賑わいを見せた。さらに近代以降は、国際貿易港の神戸港へと大きく発展していく。



らいこうじ
来迎寺

来迎寺は、別名「築島寺」と呼ばれる。経が島築造に際し、海神の怒りを鎮めようと、人柱となった清盛の家人・松王丸の菩提を弔うため、清盛によって開かれたと伝わる。松王の碑の隣には、清盛の寵愛を受けた白拍子（歌舞を業とする遊女）の塔もある。



松王丸供養塔



白拍子の塔



和田神社

清盛は大和田泊の修築工事が無事に成功するよう祈願し、安芸国・宮島より市杵嶋姫命を勧請したと伝えられている。市杵嶋姫命は兵庫七弁天の水の神でもあり、芸能や財産の守護神として信仰を集めている。また、和田神社は、海の守り神としても崇敬されてきた。



治承三年のクーデター後に 福原遷都を強行

鹿ヶ谷事件の翌年の治承二年（一一八二）高倉天皇の妻である清盛の娘・徳子が、後に安徳天皇となる皇子を出産した。待望の皇子誕生により、清盛に

は天皇の外戚となる道が開け、その政治力はさらに伸張するかに見えた。しかし、二年後の治承三年（一一七九）には、清盛の後継者である嫡男の重盛が病没してしまう。重盛は滋子亡き後、清盛と後白河法皇の対立を回避させる役目を担っていた。

この年、清盛は自らの政治に異を唱える後白河法皇を封じるため、法皇の院政停止を宣言し武士の政権を樹立、日本六十余国のうち三十五国を知行国とする。各知行国には、現在の県知事にあたる国司が置かれたが、清盛は自らの息のかかった平氏一族から、主な国司たちを任命していたとみられる。清盛の取ったこの政治体制は、貴族が政権を握る平安時代においては、実に革新的政変であり、治承三年のクーデターと呼ばれた。

また、翌年の治承四年（一一八〇）、清盛は平氏一門や朝廷、貴族たちの反対勢力を押し切り、安徳天皇、高倉天皇、後白河法皇を福原に行幸させ、福原遷都を強行する。

しかし、福原遷都に代表される急速で強引な政策には、平氏一門内からも不満が出た上、朝廷や公家たちの反対もあって、わずか半年で行き詰まるにいたった。清盛は都を再び京に遷すことを余儀なくされ、日宋貿易による海洋国家樹立の夢も、道半ばにして潰えることとなる。

反平氏の動きが活発化し 平清盛 源頼朝が挙兵



平野祇園神社

仁安二年(1167)、太政大臣を辞し、病に侵され出家した後の清盛が、10年以上にわたり居住したのが、平野祇園神社の周辺であった。清盛が経が島を築造する際、祇園神社の裏山にあったとされる寺。清盛は海潮の音を聞きながら、経が島の計画を練ったと伝えられている。

都が京から福原に遷され、清盛の孫が安徳天皇として即位した治承四年(一一八〇)は、源氏と平氏が戦闘を繰り返す「源平合戦」の始まりの年でもあった。源平合戦は「治承・寿永の乱」と称され、元暦二年(一一八五)、平家が壇ノ浦で滅亡するまで、日本各地は長期間にわたり、血なまぐさい戦場となった。

治承四年(一一八〇)、安徳天皇の即位式の準備が遂行されている頃、源行家(源頼朝の叔父)は以仁王もちひとお(後白河法皇の第三皇子)の密令により、諸国に散っている源氏系列の武将に、平氏打倒の旨を伝えていた。当時、以仁王を強力に支援していたのは、以仁王を猶子(現代の養子に似ている制度)にしていた、養母の八条院であった。八

条院は鳥羽法皇と美福門院の皇女で、皇位継承においては自らが正統との思いも強く、猶子の以仁王の即位を願っていたと考えられる。平清盛の信任が厚いにも拘らず以仁王を支持した源頼朝も、元々は美福門院に近い武士だったのである。

こうして、清盛の台頭を快く思わない皇族やそれに連なる武士たちが、ついに反清盛の行動を起こすに至った。しかし、以仁王と頼朝は挙兵するもの、すくさま平氏軍に鎮圧される。が、この挙兵の折、興福寺などの寺社勢力が以仁王に加担し、反平氏のもとに、寺社が連携していることが明白となる。反平氏勢力は公家や武将にとどまらず、確実に拡大していたのである。また、以仁王の旨

は東国の武士たちにとって、平氏打倒の機運を大いに盛り上げるきっかけとなった。

清盛はこうした事態の中、以仁王の旨を受け取った源氏の追討を計画。それを知った頼朝は治承四年(一一八〇)八月に挙兵、石橋山の戦いで平氏軍と激突するが、多勢に無勢で大敗となる。頼朝は安房の国へと落ち延びるがすぐに再び挙兵。そして富士川の戦いで、平氏軍が源氏軍の兵隊の数を実際より多くいると錯覚し、水鳥のはばたきの音を攻め込む源氏軍と思い込み敗走した。こうして、富士川の戦いでは、頼朝率いる源氏軍が戦わずして勝利することとなった。この戦で頼朝が平氏を破った後、関東での源氏の勢力は磐石のものとなった。

(4ページ写真は神戸市)

雪見御所旧跡

市立湊山小学校の塀に沿って、「雪見御所旧跡」の石碑が置かれている。この石は明治39年(1906)に同校の校庭から掘り出されたもので、清盛の屋敷の庭石と推定される。当時、雪見御所は京都の六波羅と並ぶ平氏の拠点となっており、清盛はここから京都の政治に目を光らせていた。



荒田八幡神社

福原遷都の際、安徳天皇の最初の行在所(仮の住まい)となったのが平頼盛の山荘で、その山荘の所在地が、現在の荒田八幡神社一帯である。境内には、安徳天皇行在所址(平頼盛山荘址)と福原遷都八百年記念の碑が立てられている。



安徳天皇行在所址



福原遷都八百年記念の碑

平清盛の理想都市構想

福原遷都

仁安三年(一一六八)二月に出家した清盛は、その翌年に福原に山荘を作り、以後十年余り、この地を拠点として京都での政局に影響を及ぼした。

治承四年(一一八〇)の福原遷都により、福原には安徳天皇の内裏が置かれた。平家物語には「春は花見の岡の御新、秋は月見の浜の御所、雪見の御所、萱の御所」と記されており、平氏の邸宅が点在していたことが窺える。

福原の都があったとされる地域は、山麓の傾斜地に祇園神社、雪見御所跡、荒田八幡神社などが点在している。現在の町の景観に当時の面影を見出すのは難しいが、住宅街の一角には、平家一門の栄華を偲ぶ名所・史跡が残っている。当時、わずか半年とはいえ、神戸は清盛によって新しい都となり、清盛が描いた貿易を中心とする都市として、大きく発展していくこととなる。



祇園神社の境内からは、神戸の市街地から港までを一望できる。

氷室神社

氷室の呼び名の由来は、仁徳天皇の兄が遊猟の際に氷室を発見し、仁徳天皇に氷を献上したところからきている。清盛が福原遷都の際、厳島神社から勧請した七弁天の一つ・市杵嶋姫命が祀られている。また、付近には平教盛の別邸もあり、ここに後白河法皇が幽閉されたとの説がある。(神戸市)



氷室の旧跡

氷室神社には、氷を貯蔵するための洞穴がある。約1600年前に編纂された「日本書紀」の中に、この洞穴の記述がある。地元の人は、この洞穴が日本書紀の時代からあったと信じているという。仁徳天皇の兄にあたる額田大中彦皇子は、冬にとった氷を藁草わらくさで包み、夏になった時にその氷を取り出して仁徳天皇に献上したといわれている。(神戸市)



鶴岡八幡宮 (鎌倉市)

舞殿(手前)から本宮(後方)を望む。舞殿は静御前が義経を慕いながら舞った若宮廻廊跡に建てられており、下拝殿とも呼ばれる。本宮(上宮)は應神天皇・比賣神・神功皇后をお祀りし、国の重要文化財に指定されている。



鶴岡八幡宮の大銀杏 (鎌倉市)

樹齢1,000年ともいわれる古木であったが、平成22年3月10日未明に、強風で倒壊した。その後、元の場所から図らずも若芽が芽吹き、小さな銀杏の葉を茂らせている。倒壊した樹幹部分は、再生可能な高さ4メートルに切断され、元の場所のすぐ隣に植えられている。

元々は坂東における平氏の根拠地だった鎌倉

鎌倉は、坂東(関東地方)における平氏平直方(平貞盛の曾孫)の所領であった。直方が平忠常の乱(二〇二八年)で窮地に陥った際に、源頼義(頼朝の五代前)を娘婿としたところから、平氏と源氏の関係が深くなった。頼義は前九年の役(一〇五一年〜一〇六二年)の朝廷(源氏)と安倍氏(陸奥の豪族)の戦いで、源氏の勝利を願い、鎌倉の由比ヶ浜付近に京都の石清水八幡宮を勧請し、由比若宮を建てた。これが鶴岡八幡宮の発祥で、その後、源氏の信仰の拠点として整備されていく。

源頼朝は治承四年(一一八〇)に由比ヶ浜から現在地に八幡宮を遷し、源氏再興の旗揚げをした。建久二年(一一九二)には鎌倉幕府の宗社にふさわしく、上下両宮の現在の姿に整えられ、鎌倉の町づくりの中心となった。



旗上弁財天社の社殿。鶴岡八幡宮に隣接している。

鎌倉

鎌倉は源氏がその地盤固めを行った場所で、現在も神社など多くの史跡が残り、頼朝や義経のルーツをたどることができる。



ごりようじんじや

御霊神社の拝殿

御霊信仰は平安時代に広まった民間信仰の一形態で、先祖を敬う祖霊信仰と表裏一体の関係にあるという。



鎌倉・江ノ島七福神
御霊神社には、鎌倉・江ノ島七福神のうち、福祿寿が祀られている。鎌倉権五郎景政の命日にあたる9月18日には、例祭が行われる。



弓立ての松
鎌倉権五郎景政が見回る際に、弓を立てかけたと伝わる松があった場所。



御霊神社の江ノ電の踏切を渡るとすぐに、鳥居がある。踏切が間際にあり、電車が間近に通る珍しい光景の場所。



頼朝公御祈願所の石柱。

ふだらく 補陀洛寺

源頼朝の祈願所として養和元年(1181)に、文覚上人によって開山された真言宗大覚寺派の寺。本尊は十一面観音菩薩。寺には珍しい平氏の「赤旗」があり、旗の文字は清盛の筆によると伝わる(通常は非公開だが、毎年4月にある鎌倉まつりの期間のみ公開される)。この赤旗は、清盛没後平家の総大将となった宗盛が、壇ノ浦で源氏に捕われ、鎌倉に連行された際に、宗盛が持っていたものとされている。



旗上弁財天社

源平池の東(源氏池)の島にあり、ご社殿は、八幡宮の創建800年の記念の年にあたる、昭和55年(1980)に復元された。頼朝の旗上げにちなみ、源氏の二引きの旗に願をかけるため、参拝者が訪れる。

源氏の東国経営の 拠点となった鎌倉

平直方の娘婿となった源頼義は、直方の鎌倉の領地とともに、坂東の武家の棟梁に匹敵する地位を譲り受ける。頼義の子・源義家は「八幡太郎」と呼ばれ、父とともに前九年の役、後三年の役（一〇八三年～一〇八七年）を戦い、その武勇は源氏の名声を高めた。

後三年の役で、義家に従い活躍した鎌倉権五郎景政は、平家の末裔である。鎌倉氏は鎌倉を拠点とし、東国にある平氏の中心的存在の一つであった。鎌倉権五郎景政を祀っているのが御霊神社で、創建当初は相模五平氏（鎌倉氏・梶原氏・村岡氏・長尾氏・大庭氏）を祀る「五霊神社」であったという。相模五平氏は相模平野を掌握し、相模の北方に広がる武蔵は秩父平氏の勢力下であり、房総半島には平氏の流れをくむ千葉氏がいた。千葉氏の千葉常胤は、頼朝の石橋山の戦いに参陣、平氏の嫡流でありながら源氏に与することとなった。

源平の盛衰は、東国の平氏が源氏の配下になっていくことと、密接な関係があった。

源氏山公園（源頼朝像）

源氏山は、後三年の役の折に、八幡太郎義家が山上に白旗を立てて戦勝祈願をしたとの伝説があるところから、白旗山とも呼ばれている。北鎌倉、大仏へ抜けるハイキングコースにもなっている。



佐助稲荷神社

頼朝が伊豆に流されていた1180年、平家討伐を日夜念じていたある日、夢に稲荷の大神が老翁の姿で現れた。頼朝は、平氏打倒の挙兵を行うべしとのお告げを受け挙兵を決意、戦功を収めた。その後、頼朝は天下統一の基礎を築



いた際、稲荷神霊の加護に感謝し、畠山重忠に命じて、この地に社殿を造営した。「佐殿」と呼ばれていた頼朝を助けたことから、「佐助」の名がついたと伝えられている。人々の信仰は極めて厚く、出世稲荷として、そのご神徳は広く関東一円に及んだという。



多田神社（兵庫県川西市）

970年に創建された、源氏発祥の地にある清和源氏の祖廟。満済仲、源頼光、源頼信、源頼義、源義家の五公が祀られている。徳川將軍家は源氏を称しており、歴代將軍の遺骨を多田神社に分骨している。



満願寺（兵庫県川西市）
源氏の祖と言われる満済仲が帰依し、その後、歴代の「門」が崇敬し続けた寺院。境内にある石造九重塔は国指定重要文化財、木造金剛力士像や木造千手観音菩薩立像は県指定文化財である。

源頼義が領主となって以来、義家、義親、為義、義朝と河内源氏が鎌倉を支配し、平安時代後期の義朝の時代には、同地は源氏の東国経営の拠点となっていた。義家の死後、河内源氏は都での内紛によって勢力が衰えた。しかし、義朝が東国に赴き在地豪族を組織して、再びその勢力を盛り返すことができたのである。

義朝が鳥羽院の近臣となって上洛した際には、長男の悪源太義平が、鎌倉の領有を継承した。その当時の鎌倉周辺には、義朝の大叔父にあたる源義隆をはじめ、源氏一族の所領、山内首藤氏、中村氏など源氏の家人が集まっていた。後年、坂東（関東）一帯を制覇した頼朝が、鎌倉に本拠地を置いた背景には、そうした強固な地縁が大きく影響していたと考えられる。



神戸

神戸ハーバーランド

夜景が美しい神戸港



阿弥陀寺

境内の池にある赤味がかった大きな石(写真中央)は、うおのみどう魚御堂の礎石と伝えられ、平清盛が魚供養したと伝えられる。



能福寺

「平家物語」には清盛の遺骨は能福寺の地に持ち帰られたと記されている。能福寺にはへいしょうこくびよう平相国廟がある。広大な境内には、日本三大仏の一つとされる大仏がある。

※「平相国」は平清盛のこと。他に「六波羅入道」「入道相国」とも称された。



巖島神社

平清盛が勧請し、兵庫七弁天の一つに数えられている。現在でも広く女性の守り神として信仰を集め、針供養も行われている。

平清盛が真光寺弁財天を勧請した折に、僧がこの井戸でお茶をたてて献上したと伝えられている。時宗の宗祖・一遍は真光寺の観音堂で生涯を終えた。



真光寺御膳水の井戸



生田神社 一の谷の合戦の舞台となった神社。社殿裏の生田の森に、平知盛率いる平氏軍が陣をとった。



薬仙寺

薬仙寺の萱の御所は、平清盛が福原遷都に際して後白河法皇を幽閉した場所とされる。「平家物語」の中では清盛の屋敷の一つとして登場する。



清盛塚の平清盛像

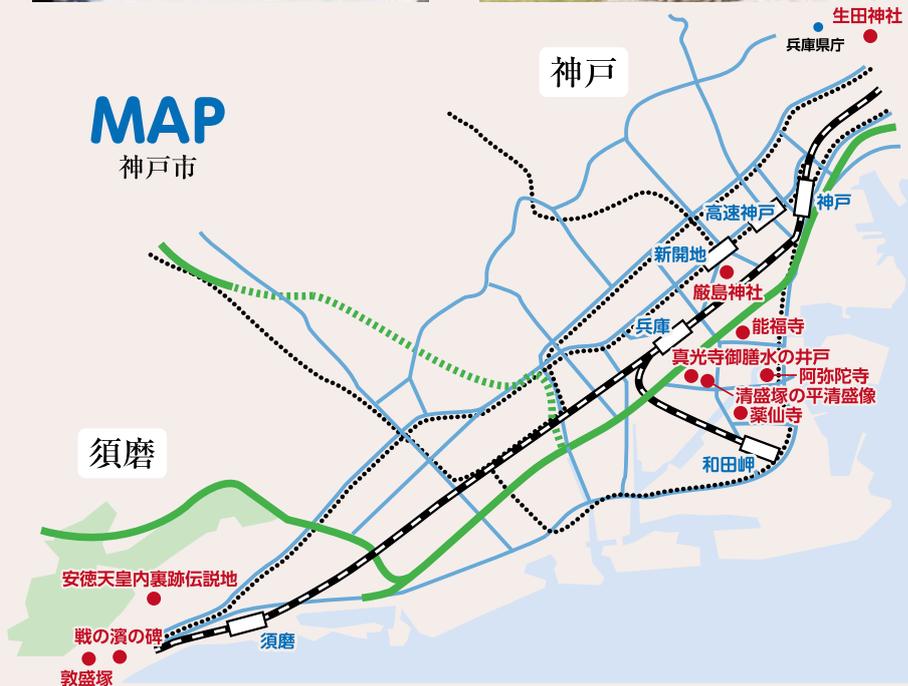
神戸出身の彫刻家・柳原義達作による清盛像。清盛は地域の人々に敬われ、大切に守られている。



萱の御所跡の碑



後醍醐天皇御薬水



平清盛没後、源平が入れ替わりで政権をとる

日本の歴史上、武士が政権を担ったのは平清盛が初めてで、平家滅亡後は、源頼朝が鎌倉幕府を樹立する。しかし、源氏からの将軍は三代で潰え、それ以降は平直方の子孫を自称する北条氏が、将軍の執権として実権を掌握したので、またも平家政権に代わったこととなる。

鎌倉幕府滅亡後は、義家の孫・義康を祖とする、源氏の足利氏が室町幕府を開く。その後、室町幕府を潰した織田信長や、それを継いだ豊臣秀吉は平氏を名乗り、豊臣家から政権を奪取した徳川家康は、源氏を自称している。

このように源平が入れ替わりで政権をとる形となったのは、信長以降、政権の正当性を主張するための名分として源氏と平氏が使われたとする説が有力である。信長は当初藤原氏を称していたが、後年になって平氏を自称した。これは源氏の足利将軍に代わって天下を治めるために、その正当性を「源平交代による政権」によって補完したとも考えられる。

いずれにしても、平清盛の平氏政権は、徳川幕府まで続く武家政権の成立に、大きな影響を及ぼしていたことになる。

須磨

一の谷

六甲山系が海にせり出している部分で、源平の古戦場となった。一の谷の合戦は、須磨から生田神社のある生田まで広範囲に及んだ。



敦盛塚

この塔は室町時代後期の作で神戸市の指定文化財。高さは4m近くあり、中世の五輪塔としては全国で一番目に高い。



安徳天皇内裏跡伝説地

「戦の濱の碑」がある須磨浦公園から坂道を上ると、住宅街の一角に、小さなお堂の「安徳宮」が建っている。

戦の濱の碑

須磨浦公園の東端、「戦の濱の碑」があるあたりに、平氏は西の砦を築き、西から攻めてくる源氏の軍勢に備えたといつ。



須磨寺の源平の庭

「源平の庭」では、平敦盛と熊谷直実の戦いの様子がブロンズ像で再現されている。寺宝は敦盛ゆかりの青葉の笛などで源平に関連した品々が保存されている。

平清盛 関連年表

| | | | | |
|----------|----------|--------------------|--|--|
| 躍進期 | 1118 元永元 | 1 | 白河 | 清盛生まれる。父忠盛。母は白河院寵妃の祇園女御とする説が有力。 |
| | 1131 長承元 | 14 | 鳥羽 | 父・忠盛が備前守となり上級貴族となる。 |
| | 1135 保延元 | 18 | | 父・忠盛が西国海賊の討伐に成功。その功で清盛が従四位下に昇進。 |
| | 1139 保延五 | 22 | | 長男・重盛誕生。 |
| | 1147 久安三 | 30 | | 祇園闖乱事件で罰金刑を受ける。三男・宗盛誕生。 |
| | 1151 任平元 | 34 | | 安芸守となる。 |
| | 1153 任平三 | 36 | | 父・忠盛死去。伊勢平氏の棟梁になる。 |
| | 1155 久寿二 | 38 | 後白河 二条の 二頭政治 | 後白河帝即位。 |
| | 1156 保元元 | 39 | | 保元の乱。その功で播磨守となる。 |
| | 1158 保元三 | 41 | | 太宰府の高官となる。二条帝即位、親政派と後白河院政派の対立。 |
| 全盛期 | 1159 平治元 | 42 | 二条 親政 | 平治の乱。翌年、その功で正三位参議(公卿)となる。 武家の棟梁となり朝廷の軍事力・警察力を掌握。 |
| | 1161 応保元 | 44 | | 二条帝親政。妻の妹・建春門院滋子が後白河上皇の皇子(後の高倉天皇)を産む。 |
| | 1164 長寛元 | 47 | 娘・盛子が藤原基実(二条帝関白、六条帝摂政)に嫁ぐ。巖島に納経。 | |
| | 1165 長寛二 | 48 | 後白河 | 二条帝崩御・六条帝が即位し、後白河院政開始。 |
| | 1166 長寛三 | 49 | | 摂政・藤原基実死去。 |
| | 1167 仁安二 | 50 | | 従一位太政大臣に任命されるが、3カ月で辞任。 重盛が権大納言に任官。 |
| | 1168 仁安三 | 51 | | 六条帝退位。高倉帝即位。清盛病に倒れ、出家し、青蓮と称する。福原に居を移す。 巖島神社造営を申請。 |
| 1171 承安元 | 54 | 三女・建礼門院徳子が高倉天皇に入内。 | | |
| 爛熟期 | 1176 安元二 | 59 | 高倉 | 建春門院滋子死去。 |
| | 1177 治承元 | 60 | | 鹿ヶ谷の陰謀。俊寛ら遠島の刑。 |
| | 1178 治承二 | 61 | | 建礼門院徳子が高倉帝の皇子を産む(後の安徳帝)。 |
| | 1179 治承三 | 62 | 重盛(清盛の長男)死去、後継は宗盛(清盛の三男)。 治承三年の政変で後白河法皇幽閉。 | |
| | 1180 治承四 | 63 | 安徳帝即位・高倉帝の院政。以仁王の令旨。福原遷都。 源頼朝、源義仲の挙兵。富士川の戦い。京都遷都。近江攻防。南都焼き討ち。 | |
| 滅亡機 | 1181 治承五 | 64 | 後白河 | 高倉帝崩御、後白河院政復活。清盛死去。 |
| | 1183 寿永二 | | | 俱利伽羅峠の戦い。平家都落ち。義仲上洛。後鳥羽帝即位。 |
| | 1184 寿永三 | | | 宇治川の戦い、義仲滅びる。源義経上洛。一の谷の戦い。 |
| | 1185 文治元 | | | 屋島の戦い。壇ノ浦の戦い、平家滅亡。鎌倉幕府樹立。 |

社会福祉法人 九十九里ホーム 様

(千葉県匝瑳市)

お客様紹介



施設管理者の五木田様(左)と、井上理事長様(右)



江波戸専務理事様

一人ひとりに愛と希望を—社会福祉法人九十九里ホーム様(井上峰夫理事長)は、病院を中核として特別養護老人ホーム、老人保健施設、デイサービスセンター、障害者支援施設などを医療福祉の総合的な観点から運営しています。

九十九里ホーム創設者のA・Mヘンテ女史の「神を信じる人を愛する心一人ひとりに愛と希望を」を基本理念に掲げ、キリスト教精神に基づき、愛を持って人に接し、患者・利用者の方々に尊敬の念を持って支援していく体制を整えています。



……九十九里ホームネットワーク……

医療・保健・福祉サービスの総合的提供

当法人は、九十九里ホーム病院を中心として、法人内の各施設間の連携のもと、ご利用者に医療、保健、福祉サービスを一体的に提供しております。また、各施設では、入所サービスの他、デイサービス、デイケア、ショートステイ、ホームヘルプ、相談業務等の在宅サービスも併せて提供し、住み慣れたご自宅での生活を支援しております。

また、九十九里ホーム様は空調の節電対策を二十年以上前から積極的に進められており、蓄熱システムの初導入は平成二年に竣工したミス・ヘンテ記念ケアセンターとなっております。その後、松丘園、九十九里ホーム病院の建物にも蓄熱システムを採用され、このたび竣工した「特別養護老人ホーム第二松丘園新館」にも(株)ヤマトの大温度差蓄熱空調システムをご採用いただきました。

井上理事長は、蓄熱空調システムについて次のようにお話ししてくださいました。

「夜間電力を最大限に活用する蓄熱システムはCO₂排出量が少ないことに加え、電気料金が安くなる空調システムで、施設の経営にとっては大変ありがたいシステムです。また、東日本大震災以降、日本の電力をどのようにまかなうか、大きな問題になっています。エネルギーの有効活用という観点からも、十分に利用されていない夜間電力を使う蓄熱空調システムは、大きな意味があります。

毎日使う設備が、蓄熱空調システムのように世の中のためになっていることが大切です。私たちは、介護の問題にしても、エネルギーの問題にしても、社会全体が良くなるように、長い目で、公平な目で冷静に見つめる必要があると



聖マールゲレット礼拝堂

九十九里ホーム病院 様

〒289-2147
千葉県匝瑳市飯倉21番地
TEL 0479-72-1131
FAX 0479-73-7165



思います。蓄熱空調システムに対して、社会が良くなるためには必要ないとだと思ひ、二十年以上前から取り組んできました。実際に、施設運営にとっては多くの利点があるシステムであることを実感しています。これからも、社会に役立つ施設づくりを進めていきたいと考えています」。

松丘園



松丘園の外観

社会福祉法人九十九里ホーム 特別養護老人ホーム松丘園 様



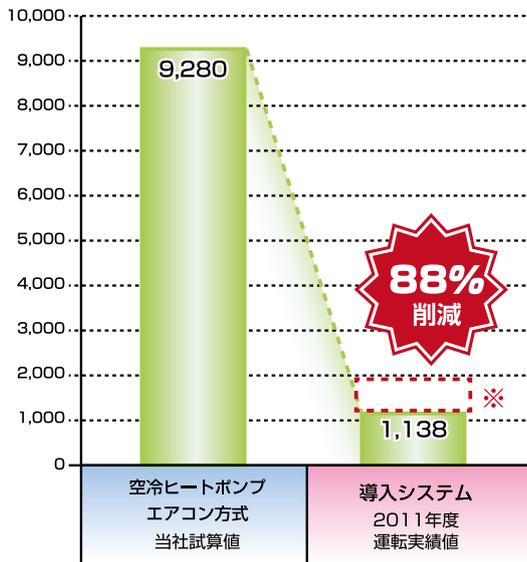
社会福祉法人 九十九里ホーム 様
大温度差水蓄熱空調システム 運転実績〔松丘園〕

| | | ①ランニングコスト (千円/年) セントラル割引 | ②一次エネルギー (GJ/年) |
|-----------------|--------------------|--------------------------------|--------------------|
| 当社試算値 | 空冷ヒートポンプ エアコン方式 | 9,280 0 | 2,932 |
| 2011年度 運転実績値 | 導入システム | 1,138 752 | 2,610 |
| | 削減率 | 88% 削減 | 11% 削減 |

□ 建物概要 延床面積：7,713.85㎡ RC造地上5階、塔屋1階
(千葉県匝瑳市飯倉17-1)

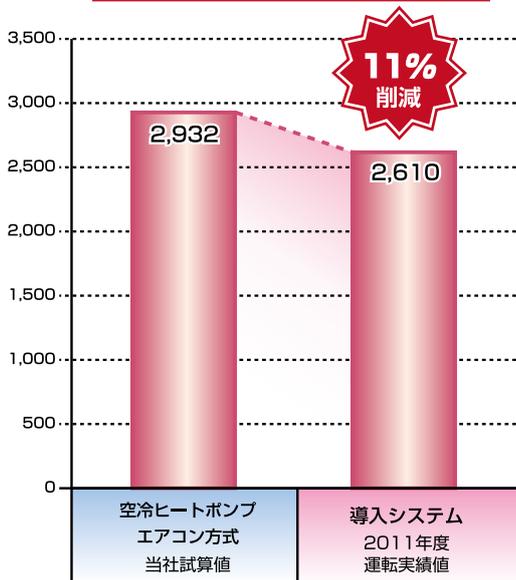
※1. 導入システムのランニングコストには、
セントラル型蓄熱式空調機器契約割引(年額)を含みます。
※2. 一次エネルギーは電気のエネルギー消費原単位：
昼間 9.97MJ/kWh、夜間 9.28MJ/kWhで計算しています。

①ランニングコスト (千円/年)



※セントラル型蓄熱式空調機器契約割引(竣工後5年間まで割引あり)

②一次エネルギー (GJ/年)



第二松丘園



第二松丘園の外観



食堂



入浴施設



居室

日本再生に繋がる エコシステムの実現に向けて

株式会社日立製作所 インフラシステム社
スマートインフラシステム総括本部
システム設計部 担当部長

～地球環境と経済の循環サイクルの仕組みづくり～

立仙 和巳

1. 日本の価値観の見直しとアイデンティティ

今年に入り、日本の製造業、特に電機メーカーの経営が苦戦を強いられている。一昔前までは安くて良いものをつくれるのが日本の強さであったが、現在は安くつくるためにモノづくり現場はどんどん海外にシフトし、日本の製造業の空洞化は止まらない状況である。一方、日本のアニメのように世界を席巻している業界もある。その他、お寿司など“SUSHI”はグローバルフードとしての地位を確立し、五重塔のように何百年も木造の建物が倒壊することなく建っている日本の建築技術は、世界から驚愕の目でみられている。その共通点は、“文化・伝統”に基づく日本ならではの価値観とそれに基づき培ってきた技術である。

アップルは電話とパソコンを融合させた今までに無いコミュニケーションデバイスを生活に根付かせた。フェイスブックは世界の人々をよりオープンに結びつける仕組みを構築した。これらは、新たな文化を浸透させたに他ならない。我々は、もう一度、日本ならではの価値観、アイデンティティとは何かを見直し、世界と対していくべきである。“モノづくり日本”、その再生は、“製造業版ジャポニズム”の発信とそれに基づく産業振興であると考え。

2. 日本再生のヒントは固有のDNAにあり

世界に通用するアニメの価値観、アイデンティティ醸成の芽は、突然確立したものではない。例えば、今年、ボストン美術館が日本で開催され、そこで展覧された作品に「平治物語絵巻「三条殿夜討ちの巻き」」と言う作品がある。この作品の中で、疾走する牛車の描写が見事に描かれている。特に牛車の車輪の描き方は、何重にもぐるぐる巻いた円で、正にスピード感、緊迫感あふれた印象を受ける迫力ある描写である。実は、現在のアニメでもこれと同じ手法を使っている。葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」の絵で、迫力ある浪の合間に見える富士山の絵は、縦と横の長さが最も美しく見える黄金比(1:1.618)を見事に形成している。北斎は勿論、黄金比を知っていたわけではない。彼自身が幼

少より育った環境から学んだものだけでなく、島国という日本人が古来より培ってきた自然観、宇宙観、美意識、道徳意識、事象認識(目に見えるあらゆる現象の捉え方)といった日本人特有のセンス、感性によるものかもしれない。また、日本人は自然と真摯に向き合う中で、土着の八百万(やおよす)の神と仏教など他の信仰との共生といった神仏習合思想にも特有の価値観を持っている。戦後、高度成長期、日本は外国の製品、文化を取り入れて、自分たちなりに新しく、さらに良いものへと改良を加えて伸びてきた背景には、こういった神仏習合の中で収められてきた特有のDNAが影響しているのかもしれない。

3. 次世代のエコシステム構築に向け

今後、あらゆる事業が地球環境との関係を抜きでは考えられない。日本は第一次石油ショック以降、省エネ関連で一時、世界をリードしたように、今後、省エネだけでなく創エネといった、地球にやさしくエネルギーを創り出す創エネ分野でも世界をリードするポテンシャルを十分持っている国である。現在、イギリスやポルトガルなど北海油田の枯渇の進行に直面して、洋上発電に真剣に取り組んだ結果、日本は本分野において周回遅れの状況である。日本はもっと自国の特長ある自然環境と真剣に向き合うべきである。その結果、必ず、地球環境分野で世界をリードできる技術／製品開発テーマが発掘できるはずである。火山国であるからこそ、“温泉熱”や、世界で6位の海洋面積を誇る故に“洋上、波力、潮力”などの新エネルギーに対する研究、開発をもっと進めるべきである。重要なのは、エネルギーを創る創電だけでなく、蓄電、そしてそれらを活用するサービスやビジネスなど、地球環境と共に生きるための仕組みづくりとそれを運営することによる雇用創出など、経済の仕組みがうまく回る循環サイクルを確立し、人々が幸せに暮らせる次世代のエコシステム(人間が生活する上での生態系基盤)を確立していくことである。その結果が今後、数十年、数百年続くサステナブル社会を実現し、日本再生に繋がるはずである。

話題の気体

阿部三郎

和'sの「W」はwater:水、「A」はair:空気を意味している。空気、広く云つて大気は地球表面を覆い、動物の呼吸及び体温維持に必須の気体であるが、最近、「異常」が起き始めているようで、これには大気汚染の進捗も含まれる。大気は混合物で、即ち酸素、窒素、炭酸ガス、水分が主体で、他に、汚染物質を含む微量成分がある。ちなみに空気の重量は0℃、1気圧の乾燥状態で1リットル、1.2gで、水の約1千分の1の重さがあるが、日常生活で特に違和感はない。成分としては、酸素21%、窒素78%、残り1%はアルゴンを主体としてヘリウム、ネオンの他、極く微量のキセノン等で構成されているレア（稀）ガスである。酸素は人が生きるための不可欠の気体であるが、人が呼吸しても全部が炭酸ガスになるわけではなく、呼気にはまだ16%の酸素が残っている。だから経口蘇生法が出来るわけである。併し酸素が15%以下の酸欠空気は、極めて危険である。

その酸素について注目すべきことがある。

近年フロンガスの拡散により極地のオゾンホールが拡大して、有害な紫外線(UVB)の照射の高まりは、人の皮膚癌や白内障の増加の弊害とは別に、これが大気中の炭酸ガスの80%を吸収して酸素を放出している大洋の植物プランクトンの生態に作用している。また、炭素同化作用に悪影響を与えはじめているのに加えて、更に近年のアマゾンなどにおける、森林の大伐採等が加わり、大気への酸素の供給を不安なものとしている。また化石燃料の大量消費によって、酸素を消費して生じた炭酸ガスの増加は地球の温暖化を促進して、世界各国、共通の難題となっている。

昨今、世上では、殆ど知られていないようだが、さきのレアガス中の成分のひとつであるキセノン(Xe)ガスが原発事故により、大量に発生し、それに起因して放射性物質の飛散がおり、世上で大問題を起こしたようである。科学資料の説明によれば、ウラン(U)の核崩壊には、色々な形があるが、ウランに中性子が当たると、ストロンチウム



(Sr)とキセノン(Xe)が生成する反応も起きるようである。

さきの震災の福島第一原発では、原子炉格納容器内の圧力上昇等が起こり、圧力解放のため内部の気体を放出した際に、核分裂生成物のうち、揮発性のあるキセノン(Xe-137)及び放射性ヨウ素が環境中に放出されたが、半減期の短いヨウ素は減衰して、相当量のキセノンガスは風と共に関東各地区まで広く拡散した。その後、そのXe-137は直ちに放射性崩壊して、アルカリ金属である放射性セシウム(Cs-137)に変身してエアロゾル(目に見えない微粒子)となり、大地に降下して、森林、農地等の各所に付着、或いは吸着され、水にも溶解したと考えられる。この漏洩放射性物質による、放射能汚染、放射能被爆がおき、今その対策に苦慮しているのが現状である。

セシウム(Cs-137)に関して過去の記憶では、昭和30年代の初めの頃、米国や英国、ソビエトなどの原水爆実験が盛んに行なわれた。大気圏内に大量の放射性物質が放出され、当然我が国にもそれが飛来して、大きな社会問題になったことがある。このうちセシウム(Cs-137)について、昭和32年、群馬大学の山縣登教授が人々の尿からCs-137の存在を検出して、その結果を同年6月、毎日新聞が報道した事実がある。しかし、当時としては、なじみの薄い元素名のためか何の反響もみられなかったと記憶している。

(大和環技研 阿部三郎)

和's YAMATO (わすやまと) 秋号 2012

「和's YAMATO」の由来

ワマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、
「S」はスタート。ワマトが発信するメッセージです。

株式会社ワマトPR誌/和's YAMATO 2012 秋号/2012年10月発行

発行: 株式会社ワマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

URL: www.yamato-se.co.jp/



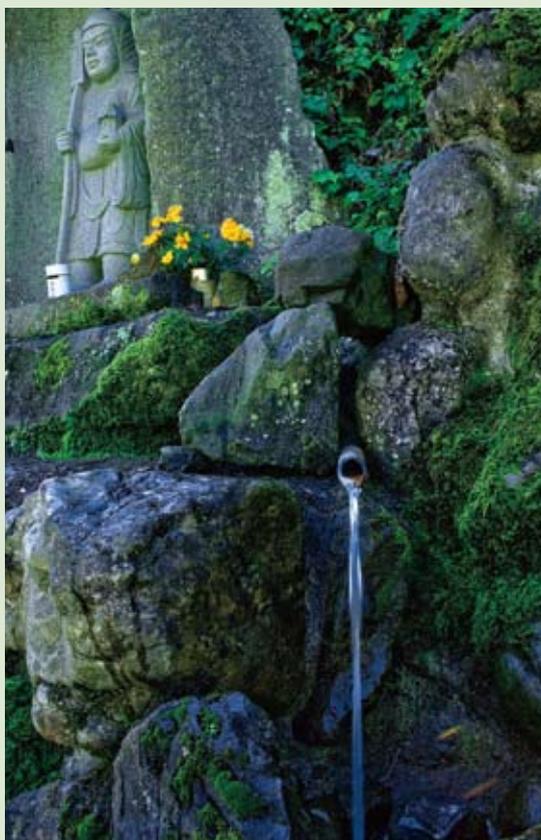
名水探訪 平成の名水百選

毘沙門水

びしゃもんすい

カルシウム分とミネラル分が、豊富に含有されている自然水。

1日の湧水量は約1,000トンで、白石山(別名毘沙門山)の麓から湧出している水を、集落まで引いている。地元住民によって、水源周辺と貯水施設などの清掃や巡視活動が行われ、衛生的な水が常時確保されている。



湧水の近くには毘沙門像がある



毘沙門水が湧き出る近くの川も水が澄んでいる



無料の水汲み場



毘沙門像と毘沙門水の案内看板

秩父カタクリの里・毘沙門水

埼玉県秩父郡小鹿野町藤倉



群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、湘南、東松山、新潟、栃木市、長野、渋川、川口、多摩、滋賀
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、教育センター ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

